

## G I G Aスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの  
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実  
主体的・対話的で深い学びの視点からの  
授業改善

# 佐倉市GIGAスクール構想

教育ビジョンに基づく施策「学力向上・学習内容の充実」

「わかる授業」「楽しい授業」を実践し、「もっと学びたい」という意欲を高めるとともに、各教科や総合的な学習の時間では、自ら課題を見つけ自ら解決する力や学びあいなどを通じてコミュニケーション能力を育てていきます。また、家庭との連携を図りながら学習習慣の確立に努めます。

さらに1人1台タブレット端末で



佐倉市の教育が変わる！  
「わかる授業・楽しい授業」へ

さらに

# 佐倉市GIGAスクール構想学びのイメージ



## ステップ4 教科の学びをつなぐ・社会課題等の解決・夢の実現

例) 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び（遠隔授業）

## ステップ3 教科の学びを深める・教科の学びの本質に迫る

※ 双方向型一斉授業

例) ・動画撮影で、振り返りやよりきめ細かな分析を可能にする。  
・各自で収集した様々なデータをPC上で重ね合わせて深く分析する。

## ステップ2 「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる1人1台端末

例) ・検索サイトを用いて、授業テーマに応じて様々な文章や動画を収集する。（調べ学習）  
・情報の真贋を判断し、整理する。（情報モラル教育）  
・文章作成ソフトを活用し、推敲を重ねて長文のレポートを作成する。（表現・制作）

## ステップ1 使う・慣れる

例) ・使い方を知る・ちょっとしたことを調べる・メッセージを送る

# 令和 7年度 研究テーマ

『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』  
を目指した授業づくり

## 指導の個別化

児童一人ひとりの理解度や学習状況に応じて、教師が指導方法や課題を調整する取り組み。

つまずきへの支援や、得意な児童への発展的な課題など、学習ペースや難易度を柔軟に変えながら「わかる・できる」を保証する指導を進めていく。

## 学習の個性化

児童自身が、自分に合った学び方を選び、主体的に学習を進められるようにする取り組み。

目標の設定や思考ツール・ICTの活用を通して、一人ひとりの興味や理解の仕方を生かした学習を実現していく。

## 協働的な学び

友だちと意見を交流し、互いの考えを広げたり深めたりする学び合いを大切にしていく。

対話や協働を通して、多様な考えに触れ、自分の思考を見直したり高めたりする学習を進める。



# 染井野小学校ICT活用

ICT活用における目指す児童像

知る

様々なツールに関心を持ち、  
タブレット端末を使うことの良  
さに気付く

広げる

基本的な使い方を  
身に付け、自ら進  
んでツールを使う  
ことができる

深める

目的に応じて  
ツールや学習方  
法を選択し、学習  
を進めることがで  
きる

教師の働きかけ

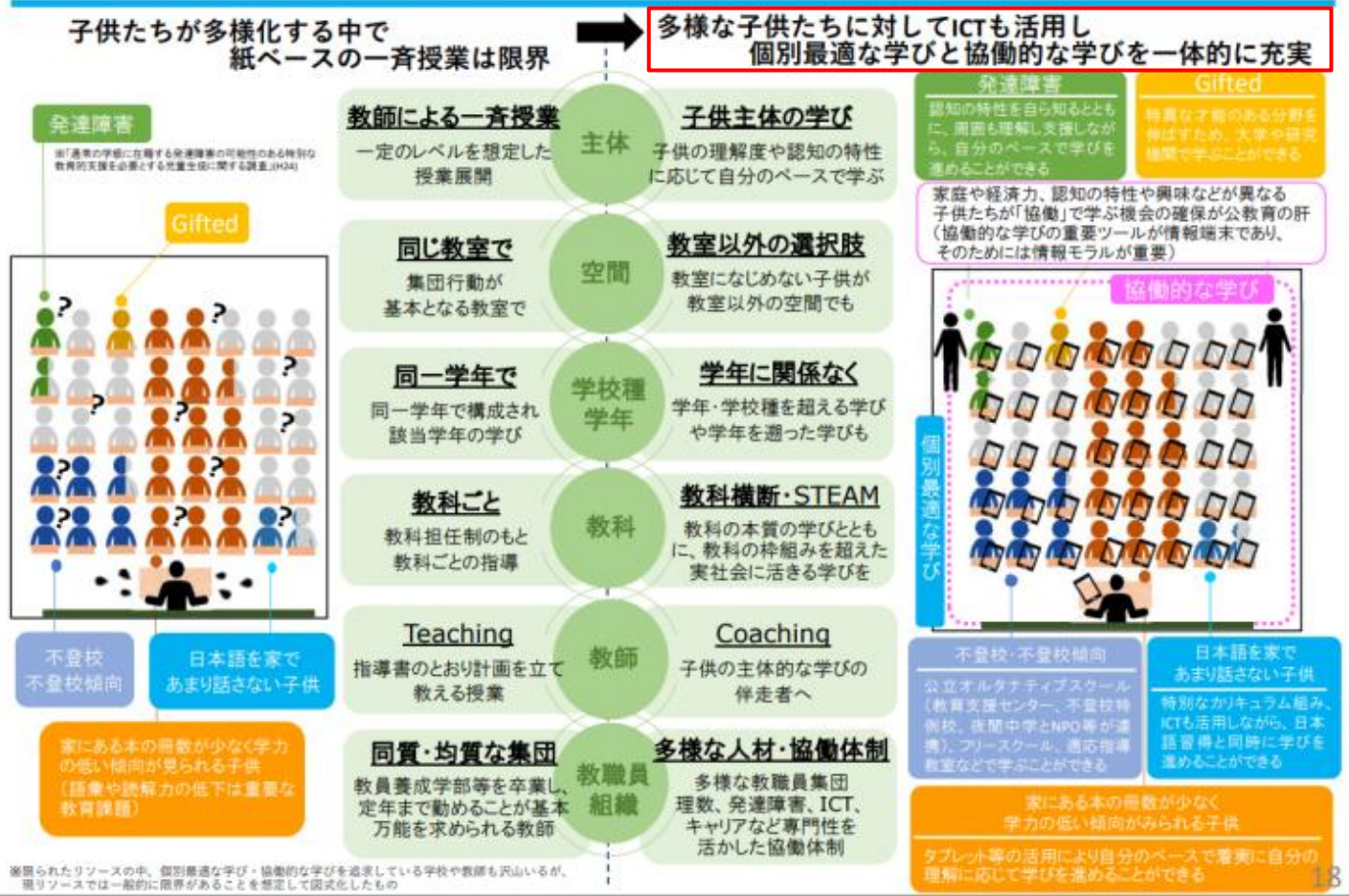
校内外での研修でのICT活用方法  
の共有及び様々な場面での活用

様々なツールを用い、  
効率的で効果的な学習指導

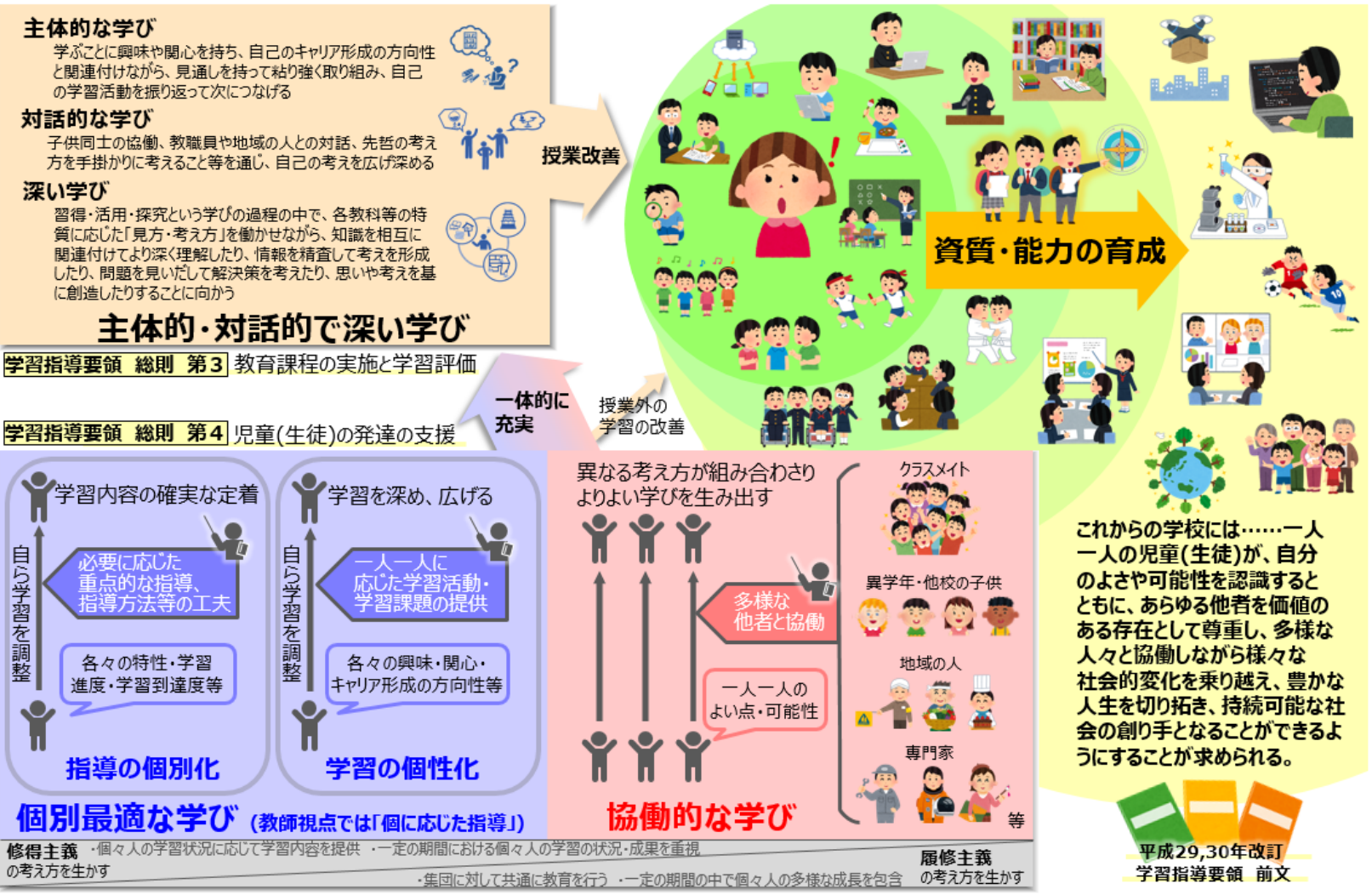
児童の選択への助言・支援

# 令和6年度の研究 中心テーマ

第1回「時間」資料 「子供の学びの時間軸」の多様化を実現(たつき台)～中学校40人学級の教室にあてはめた場合～



# 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）



※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

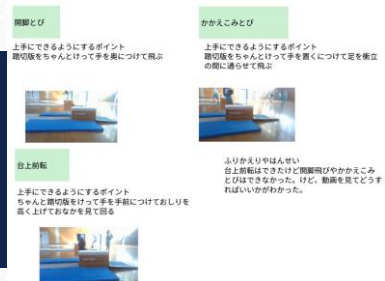
# ロイロノートの活用

～学び合うための教育ICTツール「ロイロノート」を今年度も積極的に活用しました～

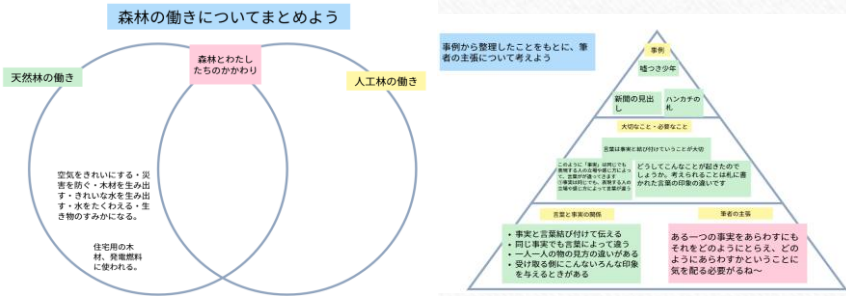
蓄積した学びを生かしたり、子供たちの学びを共有したりして、協働的な学びや学年を超えた既習事項の復習をスムーズに行いました。

※画像はR6年度の記録です。

## (通常ノート)



文字だけでなく、写真や動画・録音も活用して、様々な方法で自分の考えを表現しながら学習を進めました。



目的に合ったシンキングツールを活用し、様々な思考スキルの習得を目指しました。

## (共有ノート)

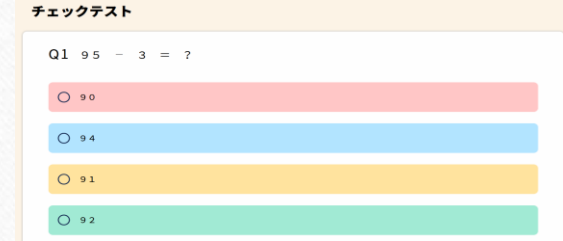


共同編集: 同時編集で、学んだことを資料や新聞にまとめました。

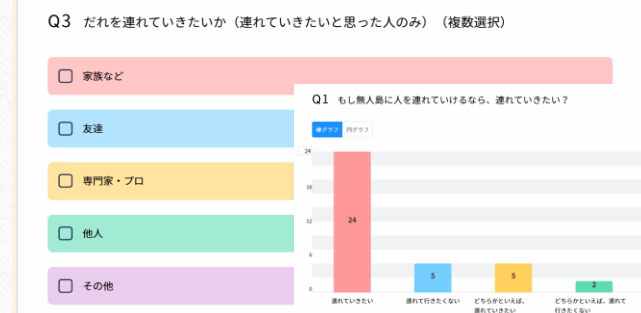
共有ノート	共有ノート	共有ノート	共有ノート	共有ノート
・ 持ち回りの役割	・ コリス	・ 大谷グループ	・ 場所	・ 特徴
・ 持ち回りの役割	・ コリス	・ 大谷グループ	・ 場所	・ 特徴
・ 持ち回りの役割	・ コリス	・ 大谷グループ	・ 場所	・ 特徴
・ 持ち回りの役割	・ コリス	・ 大谷グループ	・ 場所	・ 特徴

協働学習: 考えの共有と整理により、意見交流が活発になりました。

## (テスト・アンケート)



テスト機能: 自動採点機能により、すぐに見直しが可能になりました。



アンケート機能: リアルタイムで回答結果が分かり、グラフや表で整理されます。

## 【考え方をもって理解を深めるために】

考え方のベースとなる「考える技法」を理解すると理解が進みます。

### 各教科汎用的な思考力「考える技法」

#### 1. 順序づける

複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並べ替える。

#### 2. 比較する

複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。対象を並べ替える。

#### 3. 分類する

複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。

#### 4. 関連づける

複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。

#### 5. 多面的に見る。多角的に見る。

対象のもつ複数の性質に着目したり、対象の異なる複数の角度から捉えたりする。

#### 6. 理由づける。

対象の理由や原因、根拠を見付けたり、予想したりする。

#### 7. 見通す。

見通しを立てる。物事の結果を予想する。

#### 8. 具体化する。

対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。

#### 9. 抽象化する。

対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。

#### 10. 構造化する。

考えを構造的(網構造、層構造など)に整理する。

## 【思考を可視化するために】

「考える技法」と「思考ツール」は次のようになります。

ツール名	Xチャート	ボーン図	ステップチャート	ベン図	座標軸	マトリクス(表)	イメージマップ	クラゲチャート	KWLチャート
形									
できること	複数の視点から捉える	事象の要因を探る	順序を整理する	共通点と相違点を見付ける	2つの軸で整理し位置づけを明確にする	関係の有無や関連度合いを示す	アイデアを出す	理由を挙げて具体的に示す	「知っていること」「知りたいこと」「分かったこと」を整理する
考えるための技法	多面的・多角的に見る	見通す 構造化する 理由づける	順序づける	比較する 分類する	順序づける 比較する	分類する 整理する 比較する 多面的・多角的に見る	広げる	理由づける	見通す

思考ツールありきにならずに、まずは「何を考えさせるのか」の方針を確立してから、思考ツールを選択することが大切です。

**「個別最適な学び」と**

**「協働的な学び」の一体的な充実**

**～昨年度までの取り組み～**

# 低学年のICT活用実践例

1年生 体育「マットあそび」

2年生 算数「たし算とひき算のひっ算(2)」  
「かけ算(2)」



できるようになった技を動画で撮って、共有しました。撮った動画を見て、振り返り、更に上手になるように練習しました。



いっしょにかいけつしたい  
・同じかだいに取り組んでいる人

かくにんしたい  
・自分と考えがにている人

考えをふかめたい  
ひろげたい  
・自分と考えがにている人

だれと学ぶ?

教えてほしい  
・その教科がとくいな人  
・自分よりも先のかだいに取り組んでいる人

教えてみたい  
新しい発見がしたい  
・その教科がにが手な人

なぜ、その人のところへ?理由を考えよう!



計画表を見ながら、自分で学習を進めました。誰と学ぶのかを考え、友達と問題解決を目指しました。既習事項を活用しながら、様々な方法で説明をすることができました。考え方をロイノートで共有することで、理解を深めました。



# 高学年のICT活用実践例

## 理科「ふりこの性質」



2024/12/13

3つの実験(ふりこの長さ・おもりの重さ・ふれはば)をどの順で行うのか、ふりこの長さやふれはばをどうするのか、各班で話し合って決めました。

自分たちで決めて検討していくことで、より主体的に取り組むことができました。



2024/12/13

計画【実験②】				
をえると、ふりこの1往復する時間が変わるかを調べる。				
変える条件				
変えない条件				
結果②				
をえたととき				
測るもの				
10往復する時間(秒)	1回目			
	2回目			
	3回目			
	合計			
10往復する時間の平均(秒)				
1往復する時間の平均(秒)				

## 国語「迷う」



筆者の書き方の工夫を見つけるために、教科書の本文とチャットGPTで作成した普通の文とを比べました。見つけた工夫から筆者の意図を考え、作戦名を考える学習を思考ツールでまとめました。

① 読み手は、  
② 読み手は、  
③ 読み手は、  
④ 読み手は、  
⑤ 読み手は、  
⑥ 読み手は、  
⑦ 読み手は、  
⑧ 読み手は、  
⑨ 読み手は、  
⑩ 読み手は、



# ガーデンのICT活用実践例

## 生活単元学習「買い物学習」

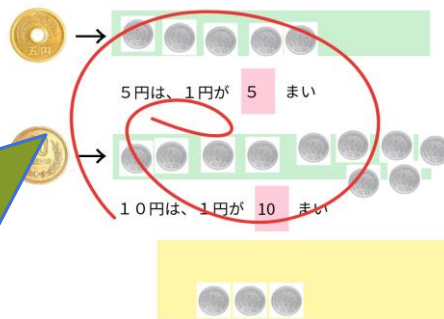


タブレットで学習したことを  
実際のお金を使ってセルフレ  
ジで支払う練習をし、お店へ  
行って買い物実践へとつなげ  
ました。



コインの種類を覚えて、同じ  
金額になるようにコインを操作  
しました。細かい金額でも、そ  
れぞれのコインが何枚必要か  
考えてぴったり支払えるコ  
インを枠の中に動かして表せるよ  
うになりました。

おな かね  
同じお金にするには、どうすればいいかな。



③ ぴったりのお金になるようにしましょう。

186円



100 円が 1 まい      5 円が 1 まい  
50 円が 1 まい      1円が 1 まい  
10 円が 3 まい



# 専科のICT活用実践例

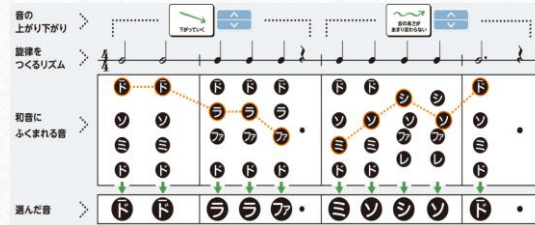
## 音楽



聴いた音楽を、感じたこと、気付いたことに分けてまとめ、友達のリズムを互いに見合って共有しました。

ペア練習で、ロイロノートを使って音源を流したり、観点を確認しながらアドバイスしたりしました。

Aの部分	感じたこと	気付いたこと
	人が喜んでいる	それは、スキップをするような音楽で心を晴れやかにしてくれているような感じがした
	感じました	からです
Bの部分	感じたこと	気付いたこと
	人が悲しんでいる	何だか音がなめらかで音が小さいから何だか人が悲しんでいるような感じがした
	... かんじがしました。	からです。



教科書のQRコードを読み込み、音楽づくりの作業ページを開きます。指定され和音から音の上がり下がりに合わせて音を選び、音楽づくりを行いました。

## 家庭科

家庭科では、トートバッグやランチョンマットの製作過程を、教師が作る人の目線で動画を撮り、ロイロノートで見られるようにしました。児童は自分の進度に合わせて個々に確認しながら、細かいところまで丁寧に作業を進めることができました。

- ③ マチを縫う
- ⑦ ミシン縫いし、糸の始末をする



- ④ 組み合わせ生地(黒)で、②～③を同様に縫う



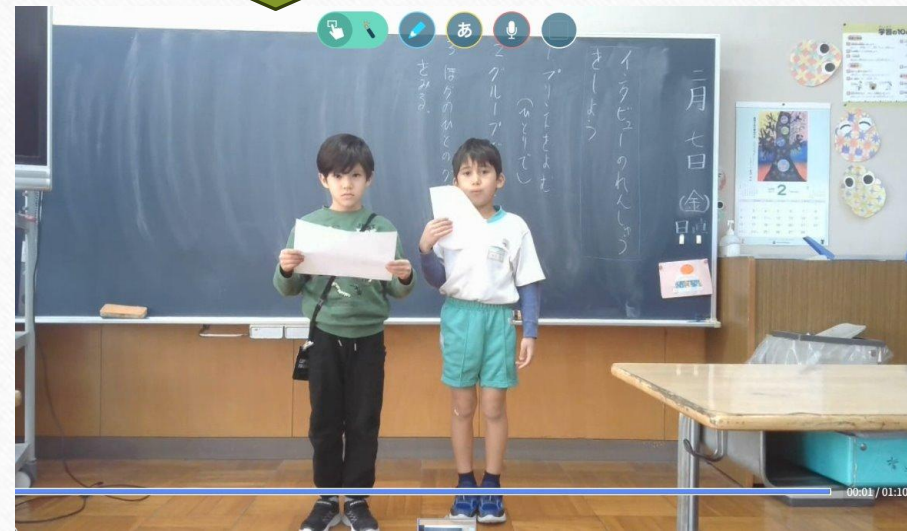
# ワールドのICT活用実践例

1年生 国語 「はじめて した 学校のこと」(ロイロノートの活用)



ロイロノートの録画機能を使って、自分たちでインタビューの練習をして、すぐに動画で動きなどをチェックしました。

今回は大画面で、みんなで視聴しました。もう少し活用が進めば、お互いにタブレット上で動画を見てチェックしあえるようになればいいと思います。



# 「個別最適な学び」と 「協働的な学び」の一体的な充実

## ～クラスでの実践例～

昨年度までの取り組みを土台とし、さらなる充実と発展を目指しました

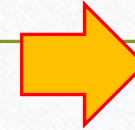
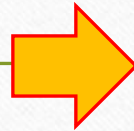
# 1年1組

## ～体験を活かした協働学習～

実践例：生活科 なつはおもしろいものがいっぱい「しゃぼん玉」

どんな道具をつくるか、必要な材料は何か  
計画を立てる。

作った道具を使って、実際に飛ばす。  
思い通りに飛ばなかった場合は作り直す。



実際にしゃぼん玉を飛ばす。  
さらに、どんなしゃぼん玉を飛ばしたいかを考える。

計画を基に、道具を作る。  
友達の道具と見比べたり、  
アイデアをもらったりする。



## ～自由進度学習～

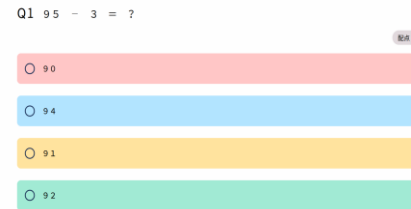
実践例：算数科 100までのかずのけいさん

計画を見ながら学習を進める。

100までのかずのけいさん		100までのかずのけいさん		100までのかずのけいさん	
問題	解答	問題	解答	問題	解答
1	のけいさんをする。				
2	のけいさんをする。				
3	のけいさんをする。				
4	のけいさんをする。				
5	のけいさんをする。				
6	のけいさんをする。				
7	けんしゅう (1-7までができていないか たし算を.)	25問	100%		



チェックテストを行い、理解度を確認する。



友達と問題解決したり、  
友達に解決方法を説明したりする。

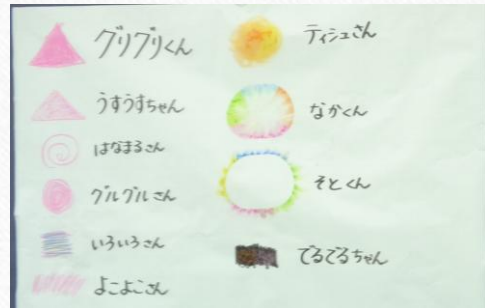
学習した内容の理解を深めるための方法を選ぶ。  
(教科書の練習問題・eライブラリー・ドリルパーク等)

# 2年1組 ~図画工作科における個別最適化と協働学習~

実践例：図画工作科「クレヨン、パスでらんらんランド」「えのぐじま」「ぎゅっとしたい！わたしの「お友だち」」

## 絵

技法を知る(試す)



制作活動(自分が表したいものに適した技法を選択)



知った技法以外に自分で発見した技法をみんなに共有することができた。



・どの教材でも、友達のところに行き、どんな技法を使っているのかを聞きながら活動できるようにした。  
・作品ができ上がったら、友達の作品を鑑賞し、工夫しているところを見つけ合った。

## 工作

教材名(目的)を知り、  
どんなものを作るかを考える

教材名と1種類のみ材料指定

↓  
どんなことができるかを話し合う。

材料を考える



設計図を描き、どこに何を使うかを考え、記入させた。

制作活動

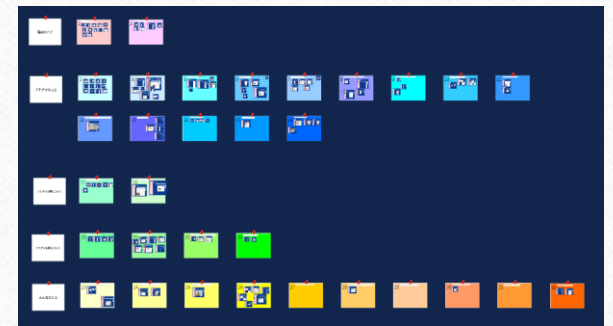
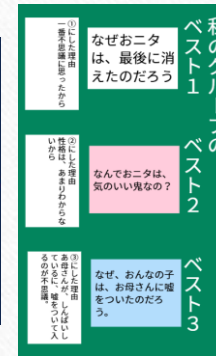
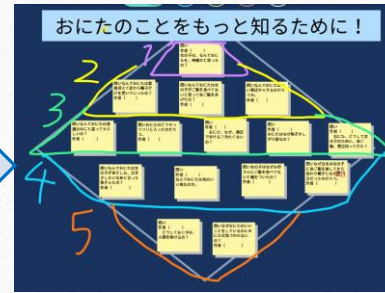
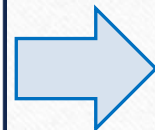
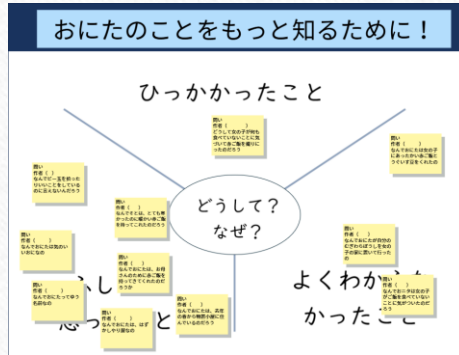
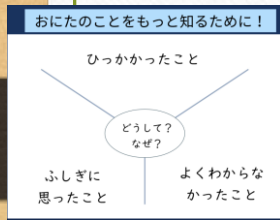


# 3年1組

実践例：国語科「わすれられないおくりもの」「モチモチの木」「おにたのぼうし」

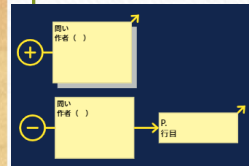
## ～物語を読み進めていく過程での「問い」づくりにおける個別最適な学びと協働的な学び～

第3学年では、国語科の物語文を中心に、読む中で生まれる「問い」を自分で考えられるように取り組んできました。



### ① 問いづくり

「どうして?」「なぜ?」をカードにしておく。



カードの2枚目には、「問い」に関する教科書のページを記入し、答えを導く際のヒントカードにした。

### ② 問いのベスト1を決める

出張グループで持ち寄った「問い」からベスト1を決める。



### ③ 「問い」の答えを考える

共有ノートを使用し、他の人の考えをいつでも見られるようにした。

答えはホームグループや出張グループの友達とも共有し、たくさんの問いと答えに触れられた。

# 4年1組

理科における個別最適な学びと協働的な学び  
実践: 空気のあたたまり方の実験

① 空気はどのようにあたたまるのだろうか。

<実験の方法>

お線香 (お線香の煙) + ビーカー



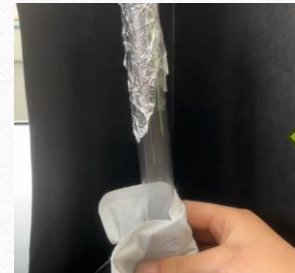
<実験の方法>

- シャボン玉
- あたたかい空気 (ヒーターの温風)



<実験の方法>

ホッカイロ、アルミホイル、試験管  
お線香の煙



<考察・まとめ>

空気は、温められると上にいく。

空気が温まる様子が観察できるような実験方法を  
自分たちで考案し、グループごとに選択

実験は各グループ協力して行い、  
結果を他のグループとも共有  
→自分たちの実験から導かれる  
考察を一般的なものに

# 5年生

## 教科選択型授業

第5学年では、4～12月において各教科ごとに「個別最適な学び」「協働学習」「自由進度学習」に取り組んできました。そして、これまで培ってきた学ぶ力をいかして、時間割の一部を自分で選択しながら日課表を作成し、クラスの垣根を超えた学年での協働学習を実践しました。

＜実践例＞ 国語科「生活をよりよくする提案」 算数科「円と正多角形」

	月	火	水	木	金
朝読書	国語	朝読書			
朝学習	算数	朝学習			
朝の会					
1			外国語		図工
2					図工
いきいきタイム					
3	社会	外国語		社会	
4	体育	道徳	理科	体育	
給食					
星休み			ロング星休み		星休み
掃除					掃除
5	総合	音楽	家庭科	総合	社会
6	学活	家庭科			委員会



	月	火	水	木	金
朝読書					
朝学習					
朝の会					
1	国語	算数	外国語	算数	図工
2	算数	国語	算数	国語	図工
いきいきタイム					
3	社会	外国語	国語	社会	算数
4	体育	道徳	理科	体育	国語
給食					
星休み			ロング星休み		星休み
掃除					掃除
5	総合	音楽	家庭科	総合	社会
6	学活	家庭科			委員会



### 学習の流れ

- ① 1日2時間分、国語と算数を何時間目に学ぶかを児童が選択。
- ② 国語を学ぶ時間は1組の教室に、算数を学ぶ時間は2組の教室に移動。
- ③ 前回の授業の振り返りを参照し、誰と学ぶかを考えて復習をする。
- ④ 学習計画に沿って本時の学習に取り組む→学習の振り返りをする。

### 自分に適した学び方の選択

- 流動的に児童が入れ替わるため、多くの友達と協働学習をすることができました。
- ロイロノート(共有ノート)に書いた「振り返りカード」を読み返し、互いの理解度を把握したうえで、目的をもって「誰と学ぶか」を考えました。
- 単元の後半には、2時間分の授業時間を(45分=1教科)×2と捉えるのではなく、(90分で2教科)と捉えることで、自分の習熟度や進度に合わせて、【国語科:提案文の見直し】もしくは【算数科:練習問題】のどちらに時間を多く使うかを考えました。

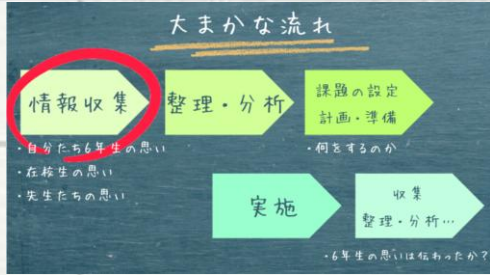


# 6年生

## 総合的な学習の時間・国語科の実践

総合的な学習の時間

国語科



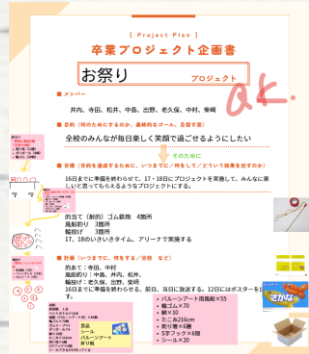
単元の学習計画や  
単元で身につけたい力  
について確認

きつねの宮 ～ を読み、自分の考えをまとめよう～ (7) p8～	
1	2
3	4
5	6
7	8
9	10
11	12
13	14
15	16
17	18
19	20
21	22
23	24
25	26
27	28
29	30
31	32
33	34
35	36
37	38
39	40
41	42
43	44
45	46
47	48
49	50
51	52
53	54
55	56
57	58
59	60
61	62
63	64
65	66
67	68
69	70
71	72
73	74
75	76
77	78
79	80
81	82
83	84
85	86
87	88
89	90
91	92
93	94
95	96
97	98
99	100

単元で身につける力や学習の流れを学習の始めに確認し(ガイダンス)、どのように学びを進めていけばよいか見通しをもつ。



インタビューやアンケートで情報の収集。地域の人や異学年との対話を通じ、自己の考えを広げ深める。



班ごとに計画を立てる。必要に応じて校外に出て材料調達をする。



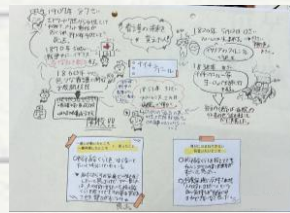
「だれと学ぶか」「どのように学ぶか」の選択



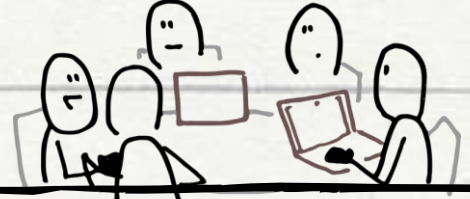
「一人で」「だれかと」その時の目的に合わせて誰と学ぶのかを選択する。

取組んでいる疑問の番号を入力しよう！(単元の数字で入力)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
児童名	6	36	7	15	22	38	
	5	13	14	15	22	38	
	11	23	26				
	11	36	15	37			
	11	7	37	17			
	11	17	7	36			
	11	23	26				

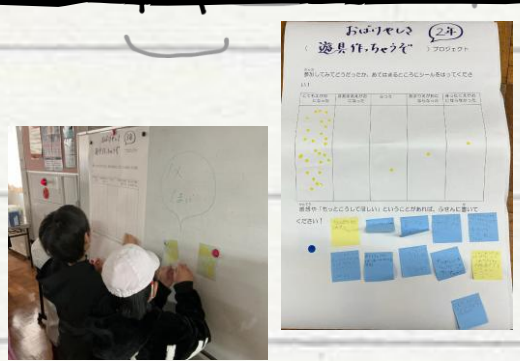
Excelシートを活用し、進捗状況をリアルタイムで確認する。相談したい相手を探すヒントにする。



手書き・ロイロノート・Canva等、自分に合った方法でまとめる。



班のメンバー以外とも相談したり、困ったら先生に相談したりし、解決に向かう。



対象相手からのリアクションをもらって分析する。次回へつながらうようなサイクルを作る。

実践→振り返り  
次につなげる

(6) 目当ての達成度90%。梅子の人生で大事なところはどこか考えてやった。紫子や捨松は日本に帰国してからも梅子と支え合っていたのに、関係図に書けなかったから、梅子の人生のうちの大事な部分を理解できていないと感じた。次回は、自分が選んだ偉人を関係図にまとめるために、もう一度大事な部分、大切な部分はどこか確認する。



(7) 目当ての達成度100%。他の人の津田梅子の関係図を見て、良かったところや自分と違うところはどこか探すことができた。他の人は津田梅子の年齢を書いていてわかりやすかったり、生物学じゃなくて、くじけず自分が選んだ道に進むところがいいという意見に共感した。次回は、今回見た他の人のいいところを横取りして、きつかけや年齢などをわかりやすく書けるようになる。

児童同士の協働から得たことを、次回の活動につなげる。

# 6年生 社会科実践例



昨年度の研究をもとに、授業づくりを行いました。その中でも、特に今年度力を入れてきたことを紹介します。

## 誰と学ぶ



ただ、誰かと学ぶのではなく、「なぜ」学びたいのかの理由を意識して子どもたちは学習に取り組みました。

## 何で学ぶ



教科書をベースに学習し、まとめる時には紙がいいのかPCがいいのか、より自分に合った方法を自分で選択して学習しました。

## 答えを探す



話し合いを通して友達の見解や考えを共有し、思考を広げたり、深めたりする活動を取り入れてきました。

## 学びをふり返る



毎時間ふり返り活動を行いました。单元ごとにふり返りの内容を設定し、次時の学習につなげられるよう取り組んできました。

# ひまわり

実践例

## 自立活動「さつまいもパーティーを開こう」

～子ども一人ひとりの特性や興味を生かせる実践的な学び～

### ①準備

- ・収穫したさつまいもの重さをはかりを使って計量しました。



収穫したさつまいもに興味をもち、調理の調べ学習につなげました。

### ③調理

- ・一人ひとりの得意を生かした個別最適な役割設定をしました。
- ・役割分担をして、さつまいもを調理しました。



### ②計画

調理時間・手順の視覚化

時間	やること
8:10	ひまわりしゅうごう、まいごのかくにん
8:20	かていかしつにゅうしつ
8:25	ちようりかいし (ぐるーぷで)
9:30	ちようりしゅうりょう (かならず)
9:30	たべる
9:45	かたづけ
10:00	しゅうりょう

1 さつまいもを洗い、1人1個ずつを量り、おにぎりにして食べます。

2 揚げたさつまいもを (1) にもどして食べます。食べ終わったら、片づけをします。

にるチーム

材料 (15人前)  
さつまいも 1875g (約1.875kg)  
みりん 大さじ14 (約)  
砂糖 大さじ17.5  
醤油 小さじ7.5  
水 1500ml

時間	やること
8:10	ひまわりしゅうごう、まいごのかくにん
8:20	かていかしつにゅうしつ
8:25	ちようりかいし (ぐるーぷで)
9:30	ちようりしゅうりょう (かならず)
9:30	たべる
9:45	かたづけ
10:00	しゅうりょう

やくチーム

材料 (15人前)  
さつまいも 1350g (約1.35kg)  
サラダ油 大さじ7.5  
塩 少々  
(さつまいもの1人ぶん、90g)

友だちと協力しながら、準備・調理・片づけを行い、協働性を育てました。

### ④振り返り

- ・子ども同士で計画→活動→振り返りの流れ (よかったところや次に活かしたいこと) をまとめました。



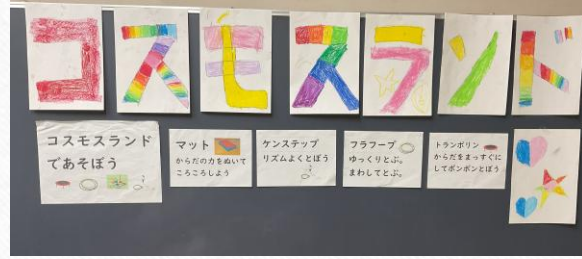
1月29日 さつまいもパーティーをしました。包丁を使うのが難しかったです。包丁を使うときにたくさんアドバイスをきかれて、切れました。お手を焼いてるときは、いい匂いがしました。食べたらすごくおいしかったです。楽しくできました。またやりたいです。

子どもたちの関心・意欲を尊重し、全教科において実生活に活かせることができる集団活動を取り入れていきたいです。子どもたちが、達成感や充実感が感じられるような学びをつくっていきたいです。

# コスモス

自立活動

「コスモスランドであそぼう」  
の実践



マット、ケンステップ、フラフープ、バランスポールやバランスボード、輪投げ、トランポリンなど様々な用具を用いた場を設定する。  
(指導の個別化)

児童はそれぞれスタートの場所を決め、自分のペースで用具を選びながら、体のバランスや移動、用具の操作などの基本的な動きを経験することができる。  
(学習の個性化)

少しずつ運動経験を積み、バランス感覚や腕、手の使い方などの動きを養う。



用具	1	2	3	4	5
ケンステップ	3分	5分	8分	10分	15分
アンバーヒコ	1分	2分	3分	4分	5分
トランポリン	1分	2分	3分	4分	5分
円盤投げ	1分	2分	3分	4分	5分
フラフープ	1分	2分	3分	4分	5分
まわして遊ぶ	1分	2分	3分	4分	5分
ボール	1分	2分	3分	4分	5分
いす	1分	2分	3分	4分	5分
バランスボール	1分	2分	3分	4分	5分
バランスボード	1分	2分	3分	4分	5分
バランスボール	1分	2分	3分	4分	5分
トランポリン	1分	2分	3分	4分	5分
アンバーヒコ	1分	2分	3分	4分	5分
ケンステップ	1分	2分	3分	4分	5分

振り返りカード

## 生活単元「ガーデン野菜畑」の実践例 「ガーデン野菜畑のまとめをしよう」

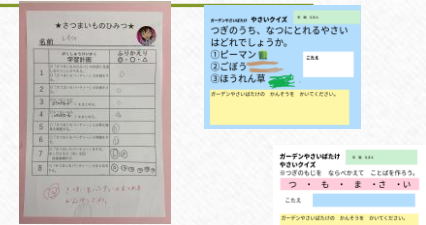


ロイロノートで写真をもとに感想日記を作成する。  
(学習の個性化)



写真日記やインタビューなどを新聞の形にまとめる。  
(協働的な学び)

- ①ガーデン野菜畑の1年間のまとめを昼の校内放送で発表した。
- ②野菜畑のまとめを昇降口に掲示し、感想を書いてもらう。
- ③感想を書いてくれた人にお礼のメッセージカードを送り届けた
- ④感想が届いた喜びを共有し次活動への意欲付けを行う。



振り返りカード

## 生活単元「野菜を季節でわけてみよう」



野菜カードを各自、春夏秋冬の台紙の上に置いていくようにする。



タブレットで調べている。

調べる方法を選択する (学習の個性化)



季節の本を参考に調べている。



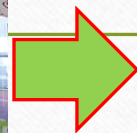
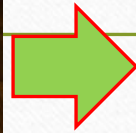
黒板で発表して、友達の意見も聞く。

共有する (協働的な学び)

# たんぽぽ

## ～個別最適な学びを取り入れた学習～

実践例：自立活動「もりあげよう！ デフリンピック」



デフリンピックに関する写真、本、動画などを用意したことにより、児童が調べ方の選択をすることができました。

紹介したい内容を児童の興味・関心に応じた内容(時期・歴史・種目・特徴・作倉出身選手)にしたことにより、児童は主体的に活動しました。

全校児童が応援メッセージを書いたり、掲示物を見た感想を書いたりして、全校に「難聴理解」を広げることができました。作成した児童も「掲示してよかった」と、学習した充実感を得ることができました。

## ～異学年との協働学習～実践例：自立活動 「なんでもきいてね！これであんしんしょうがっこう」

来年度、通級指導教室を希望している園児に、小学校の1年間を紹介する冊子を作成しました。その際、交流学級の児童や難聴理解の学習をした高学年の児童にインタビューした内容も加えました。



「まえからはっきりはなしてね。」  
「わたしがわからなかったら、かたをたいてね。」とおねがいたよ。



わからないときは「もう1かいってね。」  
といえたらいいね。



56ねんせいもほちょうきについてぺんきょうしてきて、インタビューしたよ。

# 専科 (音楽科)

一人一人の思いをICTや視覚化した表現で共有し、協働的な学びへつなげる  
～歌唱・器楽・音楽づくりの実践例～

2年生 歌唱 「ゆうやけこやけ」

「ゆうやけこやけ」どの部分を大切に歌いたいですか

ひとりひとりの思いを視覚化する【学習の個性化】



班でどこを大切に歌うか話し合った後、発表

☆発表前にひと班ずつ声を聴き助言  
⇒自分たちで練習

5年生 器楽 「こもりうた」

日本の作曲者のいない歌(子守歌二種類)を歌った後、気に入った方を箏で演奏



自分たちで数字譜を見ながら教え合って演奏【協働的な学び】

【協働的な学び】

活動後のふり返りを充実させる。スムーズに活動に入るために時間をさらに効率よく使えるよう、ICT活用をさらに充実させていく。

1年生 音楽づくり「えからうまれる音楽

絵から想像する音をカタカナ(擬音語)で表し楽器を選んで演奏



回数を決め、3人で順番に行う。重ねて演奏したりしてひびきを味わう。続けて演奏し最後は全員で音を楽しむ【協働的な学び】

# ワールド

日本語を「話す」「聞く」「読む」「書く」場面を数多く設定し、児童が日本語を多く使えるようにする。

## 読む。書く。

読

正確に音読するために

- ①文字と音を一致させる。
- ②読めない漢字には、ふりがなをふる。

正しく文章を書くために、

- ①教科書の視写に取り組む「一文書く→音読する。」という活動を繰り返し、数多く行った。

書

- ②漢字「ビンゴゲーム」に取り組む。漢字の書き取りをゲーム化して取り組み、書くことができる漢字を増やしていった。

発展  
→

### 2年「かたかなで書く言葉」での実践

- ①同じ言葉を平仮名とカタカナで書いて提示する。
- ②なぜ片仮名で書くのかわけを出し合う。（協働的な学び）



文字を並べて、討論した。

- ③選択肢の中から、回答させる。
- ④片仮名で書く語の種類を知る。

### 2年「空気と水」での実践

- ①「コップの中に水をいっぱいにして逆さにして、水面よりあげたとき「コップの中の水は落ちる、落ちない、その他」の選択肢から回答を選ばせる。
- ②その理由を自由に出し合う。
- ③実験で結果を確かめた。



予想・討論の後での実験でたしかめた。

今後は、日本語定着度に合わせて、ICTを活用し自由に討論の場を作っていく。

# まとめ

## 今年度

- 個別最適な学びを実現できるようになり、児童の意欲も向上している。
- 学習の仕方を確立し、自分にあった方法で学習する児童が増えている。
- ICTリテラシーがより向上し、自分たちの思いや考えを表現するためのツールとして、授業内だけでなく係活動や委員会活動など様々な場面での活用が増えた。



## 来年度

- 『多様な子供たちに対してICTも活用し個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実』の実現を目的とし、より一層児童の学習を深められるようにする。